

第4次館山市総合計画「後期基本計画」素案に対する市民意見募集（8/11～9/4実施）の回答集計

性別	年齢	居住地区	職業	分類	事業名	意見
1.「後期基本計画素案（骨子・計画事業リスト）」について						
男	80歳代以上	那古	無職	素案について		<p>●「海と空と大地！豊かな自然を生かした館山暮らしのご提案」</p> <p>①現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たち生活者にとって、館山は豊かな自然と温暖な土地柄でありながら、少子高齢化が進んでいる。とりわけ農業の担い手不足は深刻であり、抜本的、総合的改善が緊急の課題となっている。 ・同時に、館山はイノシシ、シカ、アライグマ、カラスなど獣害動物が増え、今後サルの南下も予想されており、このままでは農産物の被害にとどまらず、農村の存続が困難になるものと思われる。 ・上記の課題を解決するためには、「農村で暮らす市民を増やす活動」をそれぞれの後期基本計画、事業計画の基本に置き、企画・宣伝活動体制についても市長を先頭に進めることが成否のカギとなります。また、現在、農村地域で暮らしている市民の経験と知恵をこれら後期基本計画に活かすことが、移住者を増やすためには重要なポイントとなります。
男	80歳代以上	那古	無職	素案について		<p>②見えてきた！！新しい時代が来る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生のまちづくり、国内都市との交流の推進、館山市が国際交流を担う最適な都市としてPRに努める。 ・食のブランド化の推進、中山間部の整備（獣害対策）、現在、農水産課の指導の下に合計8団体の鳥獣対策協議会が発足し、自主的に活動しているが、「食文化の開発」に適応した本格的な解体処理施設の設置が急務となっている。既存の8協議会の連携強化を図ることによって、ジビエ料理など「食文化」のブランド化推進が可能です。 ・スマート農業の推進、新たな農業の担い手の確保・育成、組織的な営農スタイルへの支援、後押し。地域農業生産基盤の整備、農地の保全と有効活用、農業経営安定化支援。 ・新たな雇用創出と就業支援強化（企業誘致・起業促進）、移住・定住の推進。館山固有の文化・資源の活用による人口創出事業の推進、大学・高校等教育機関と提携し「人口増創出講座」を設け啓発活動を進める。 ・住環境の充実、とりわけ農村地帯の空き家・未耕作農地の点検・整備、再利用制度の充実・管理。定住自立圏構想事業。
男	80歳代以上	那古	無職	素案について		<p>③プロジェクトチームの結成、一元管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期基本計画・事業計画の策定・プロジェクトチームは、市長直結の組織とし、5年後に解散する。 ・大都市在住の国民を対象に勤労者・学生に「事業計画の内容」を広く宣伝する。特に青年男女にPRできやすい場所を心がける。また、宣伝地域に大学、高校など教育機関が近くにあればパンフレットなどを提供できるように心がける。なお、全ての行動は道路交通法などの諸法律を順守して行う。 ・プロジェクトチームは、予め調査を行いPR資料の配布対象先をリストアップし、定期的に郵送し、反応後の点検を行い、検討ができるように記録・管理する。また、市職員のみなさんで可能な方は「館山暮らしのメリット」を市外在住の知人友人に紹介し、結果をプロジェクトチームに紹介する。 ・プロジェクトチームは、宣伝の対象先、宣伝スケジュールを作成するほかに「館山暮らし5か年計画」の全体像を策定する。
男	30歳代	北条	会社員	素案について	館山駅東口駅前広場の整備	<p>駅前商店街から車を排除し、街路樹やベンチを配置し、人が歩いて楽しめるコミュニティ空間として整備し、中心市街地の活性化を図っていただきたい。大型商業施設に流れているヒト・モノ・カネを地元商店街に取り戻し、地域内循環を作っていただきたい。</p> <p>※広井良典著『人口減少社会のデザイン』にこのようなことが記されており、館山市においても参考になるのではないかと思います。</p>
女	40歳代	館野	会社員	素案について		<p>医療保険事業に関して、労働者人口が少ないことから、病院に入院する以前から健康づくりに力を入れる仕組みを強化するべきと考えます。高齢者のコミュニティを運用する力を最大限生かし（コロナウイルスで難しくなっている現実がある）地域で暮らし続けられる仕組みを強化するべきだと考えます。</p>
女	40歳代	館野	会社員	素案について	移住・定住促進事業	<p>コロナウイルス禍だからこそ都心でテレワークが可能な労働者をターゲットに移住促進の強化を図る</p>

性別	年齢	居住地区	職業	分類	事業名	意見
女	50歳代	那古	会社員	素案について		防災体制の強化を図るうえで、防災行政無線が聞こえづらい地域への対策を講じていただきたい。
女	50歳代	那古	会社員	素案について		休耕農地の保安対策について、休耕農地の草木が伸び放題で土地の持ち主もはっきりせず、相談しにくい所がない。有効利用に繋げていく方策を検討していただきたい。
女	50歳代	那古	会社員	素案について		子ども・高齢者にも生活しやすい、また若者も働ける場所が持てる市であってほしいです。
男	40歳代	館野	会社員	素案について		近年、豪雨に伴う河川の氾濫等が全国的に多数発生しています。滝川に関しては、拡幅工事がなされていますが、昨年10月の豪雨においては水位の上昇が確認できました。地域住民の避難のほか、消防団の方々の見回りや対応などにも危険があらうかと思えます。水位計の設置などにより目視での確認以外で氾濫危険情報が取得しやすく、避難を早期に開始しやすい情報環境の構築をお願いできませんでしょうか。
男	50歳代	豊房	その他	素案について		少子高齢化が進む中、やむを得ないと考えますが、老人ホーム等への入所を希望している待機者（後期高齢者）を少しでも減らす計画を希望したい。 可能な限り安価に入所できる特別養護老人ホーム等の老人介護施設。
女	40歳代	北条	会社員	素案について		国道・県道の歩道整備（街灯含む）は、子どもたち、高齢者、旅行者の安全、利便性の確保につながるのので、重点度を高めに実施をお願いします。
女	40歳代	北条	会社員	素案について		電車・バス（市内・東京との路線）の本数増便、利便性の向上もお願いします。
女	40歳代	北条	会社員	素案について		館山市としての魅力を発信し、ワーケーションなどの誘致をはかり、人・モノ・お金の交流の活性化を期待します。
女	70歳代	その他	その他	素案について		基本目標1子育て・福祉・医療の基本施策⑦「健康づくりの推進」について、南房総地域住民の健康を支える看護師が圧倒的に不足しています。看護師を外部から得ることは難しく、自前で養成するしか方法は見つからず、現在の安房医療福祉専門学校があります。卒業生も地域で活躍しておりますが、医療を発展させていくためには継続的な養成が必要です。しかし、看護教育には費用がかかり継続が危ぶまれる状態にあります。私たちは節約と工夫で日々戦っておりますが、教育の質を維持するためには限界があります。看護師養成が発展・継続し、地域の人々が安心して医療が受けられるように骨太の支援をお願いしたいと思えます。
男	50歳代	館野	会社員	素案について	救急医療体制確保事業	最優先に掲げていらっしゃるが、「看護師確保」に向けた具体的な施策が見えません。安房のような高齢化、人口減少が加速するエリアでは医療事業に限らず「人的資源の確保」が鍵となってくることは言うまでもなく、少子化対策のみならず、若者の流失を防ぎ、且つ外からも若者を呼び寄せることが重要と考えます。人的資源の確保については即効性のある施策はなく、官民一体となって時間をかけて計画的に進めていくことが必要と考えますが、救急のみならず地域医療を支えていく人財の育成について、具体的にどのような戦略をお持ちなのかお考えを伺える機会があると幸いです。看護専門学校は収益性の高い事業ではなく、使命感だけでは限界があり近い将来破綻してしまいます。言葉で述べるのは簡単ですが、人財の育成にどれだけお金と時間と労力がかかるのかは容易にご推察いただけるものと考えます。繰り返しになりますが、是非、今後の政策について行政と実際の教育現場で直接意見交換できる機会を切望いたします。
女	30歳代	その他	会社員	素案について	学童クラブ運営事業	運営時間の延長（18:30か19:00までを希望）、利用可能学年の拡大（小学校6年生まで利用可能を希望）、土日祝日も平日同様に利用したい。
女	30歳代	その他	会社員	素案について	生活困窮者自立支援事業	生活保護の受給に至らない生活困窮者に対する支援内容の拡充を強く希望。
女	40歳代	その他	会社員	素案について	生きる力を育成する教育の推進	今後、支援が必要な学生は増えていくかと思えます。現在も、支援に手をかけられる人材に限りがあるのが現状かと。より一層の支援体制を考えていただけたらと思います。
女	50歳代	北条	会社員	素案について		歩道が狭く夜間の歩行者の安全が守れない。歩行者自身も反射帯を使用する等義務付ける必要がある。道路のセンターラインが薄くわかりづらい。早急に対応してほしい。

性別	年齢	居住地区	職業	分類	事業名	意見
女	40歳代	その他	会社員	素案について	「多世代共創社会」・「生涯活躍のまちづくり」の推進	この地域での少子高齢化はしょうがないが、市が中心となり若者が来なくなる街づくりをお願いしたい。転居届などの提出時、市役所の若い方が中心となって館山市に興味のわきそうなタウン誌の作成、配布、市が奨学金を出しているまたは市内に学校のある専門学校生には、地域の保育、介護への参加、見学相互の交流を企画していただきたい。他の地域から来てもこの地域とつながりを持ち愛着を持って生活を行っていきける（移住定住の促進）（コミュニティ医療の推進）（多様な主体との連携）中学生の看護学生体験（福祉キャリアの推進）
					コミュニティ医療推進事業	
					福祉・環境・キャリア教育の推進	
					移住・定住促進事業	
女	40歳代	北条	公務員・団体職員	素案について		観光（スポーツ観光含む）は全て民間委託にしては。行政が直接行うよりも効果的だし、委託料に見合った効果がない事業はどんどんやめるべきです。SDGsの理念を尊重するならば、観光よりも教育や福祉にお金を使うべき。
男	30歳代	豊房	会社員	素案について	情報（モラル）教育の推進	society5.0を進めるにあたって、デジタルネイティブ世代の育成は最も力を入れるべきと考えたため、最優先事業にすべき。
男	30歳代	豊房	会社員	素案について	有害鳥獣対策事業	対策をする上で重要なことはモグラ叩きの一時しのぎの対策ではなくて、経年データを解析した上で場所場所に応じた適正な対策をすることが重要であるため、連携の部分に「獣害対策の地域コンサルタント」も追記してほしい。
男	30歳代	豊房	会社員	素案について	森林・里山保全整備事業	SDGsにおける持続可能な「開発」目標と考えた場合、森林・里山は「保全整備」されるものではなく、「利活用」されるべきと考えたため、名称を「森林・里山利活用事業」に変更してほしい。また、マテバシイ等におけるナラ枯れ被害も広がってきているため、ナラ枯れの重点的・計画的な防除を追記し、計画的な防除が望まれる。
男	30歳代	豊房	会社員	素案について	自然環境保全対策事業	「自然環境を守るための」というニュアンスが曖昧な目標であるため、「生態系における希少動植物の調査及び保全活動を行う」という一文を追記し、より具体的な希少動植物（文化財保護法、種の保存法、レッドデータブック等）の調査及びそれらのデータベース化を含めた保全活動を検討すべき。

2.新規事業提案について

男	80歳代以上	那古	無職	新規事業提案	休耕作畑（農地）の再活用制度	館山市が借り受け、無料で利用者に5年間貸与する。
男	30歳代	北条	会社員	新規事業提案	地域電力会社の設立	民間会社、市民との共同出資による地域電力会社（電力小売事業者）を設立し、地元で発電した電気を地元で消費することで、経済の地域内循環を図る。※ドイツにおけるシュタットベルケのように
男	30歳代	北条	会社員	新規事業提案	エネルギーの有効利用を意識した都市計画づくり	電気・ガス・熱といったエネルギーを地域内融資ができるようなインフラ整備を含めた都市計画づくりをする。コージェネレーションの普及促進を図る。バイオマスの活用。防災上も有効。
男	30歳代	北条	会社員	新規事業提案	IT特区の申請	自然豊かな館山の魅力を活かし、リフレッシュしやすい環境で革新的なITサービスを生み出す為の特区を申請し、IT企業を誘致する。家賃補助や税制優遇。
女	70歳代	その他	その他	新規事業提案	館山遊びランド	自然と高齢者の力を活用したレジャー事業を立ち上げる。高齢者は多様で高い能力をもっておられます。アクティブシニアを人材としてとらえ、自然環境を活用した事業で館山市が元気になってほしい。 高齢者の生きがいづくりと、観光を結び付けた構想、人工的なものは極力少なくし、自然観をクローズアップさせる。宿泊で楽しめるスケールのものを考える。食事はレストランかテイクアウトで、食材は地元生産物を使用する。駐車場や直通バスも必要（スケールが大きくないと成功しないと思う）。
女	40歳代	北条	公務員・団体職員	新規事業提案	多様性への理解・普及	学校教育、生涯学習の活用。様々な世代・環境の人が学べる場。
男	30歳代	豊房	会社員	新規事業提案	ジビエ利活用事業	有害鳥獣対策により捕獲された個体の一部をジビエとして利活用することを推進し、食のまちづくりに寄与する。
男	30歳代	豊房	会社員	新規事業提案	地域資源利活用事業	森林・里山などの自然資源、各種産業における余剰・廃棄資源を利活用し、地域の豊かさを普及啓発する。

性別	年齢	居住地区	職業	分類	事業名	意見
男	30歳代	豊房	会社員	新規事業 提案	ビックデータ整備事業	行政の管理するビックデータを経年的・横断的に一元管理し、各種施策で利活用する。個人情報抜いた一部のデータは民間へ提供し、商業の発展に寄与する。
男	80歳代 以上	北条	会社員	新規事業 提案	日本一礼儀正しいまち に	子ども、大人を問わず、常に明るく、元気な挨拶ができるまちをつくり、良好な人間関係を築くことで、住みやすさを実感できるまちを目指す。各団体やSNSの利活用による啓蒙活動、スローガンの構築と家庭・学校・地域・職場での励行、講演会の開催などにより徹底的に周知・普及する。
3.その他						
女	30歳代	那古	会社員	その他		子どもが那古小学校に通っているが、徒歩では50分近くかかるので、車で送迎することが多い。他の保護者の方も車で送迎の方が多数いるのですが、駐車場と子どもの歩道の整備をしてほしい。子ども達が駐車場の中を歩いてとても危険に思っている。徒歩で通うのが原則なのは理解できるが、遠い地域なので、とても難しい。那古小（幼）が駐車場にしている土地は民間に借りているものと聞いたことがあるが、ご検討いただくと助かる。

今回いただいたご意見は、今後、高校等に個別依頼して実施予定の意見募集の結果とあわせ、庁内各課に情報提供するとともに、次回の総合計画審議会までに、各課で反映・考慮するかどうか検討してもらいます。次回の総合計画審議会では、事業の統合等も含め、検討結果を「後期基本計画原案」とあわせてお示しします。